

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直し委員会 第2回総合部会 委員意見要旨

No.	項目	発言要旨
1		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な働き方の推進という点で、取組に「テレワーキング」を入れるべき ・そうすれば、もっと企業や大学が検討するきっかけになる
2		<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークにおいてはセキュリティ対策が重要 ・家庭の近くにセキュリティを完備したオフィスを整備する場合と、各家庭で在宅の場合があるが、後者の場合、セキュリティを重んじるビジネスの場合は難しい場合もある ・セキュリティに厳しくない場合等、企業が在宅ワークにもっていく努力が必要
3		<ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃はみんな幼児なので、障害のない幼児にも、障がい児の「子育てヘルパー」のような仕組みがあるとよい ・費用面でもうまく仕組みを作り、少しの間、面倒を見てもらうというようなものができるとうい ・そのために高齢者の力を借りていくのもよいのではないか
4	出産・子育て 女性の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の社協では、高齢者や障がい者に加え、子育てについても横断的に取組をしようとしている ・その際、支えていこうとするサポーターとなろうとする人には、資質や責任問題など不安があるため、この人たちを支えるサポーターのサポーターのような仕組みが必要になるのではないか
5		<ul style="list-style-type: none"> ・女性の生きづらさの解消や魅力のある大分県づくりは時間もかかる難問 ・まずは、県の本気度を示すために、若い女性向けの、メッセージ性のある、形ある何かが必要ではないか ・具体的には、行政と民間と地域が本気で取り組むというメッセージ性の盛り込んだアクションプランのようなもの
6		<ul style="list-style-type: none"> ・女性社員にとっての主な問題は、特に学校行事のために休みを取ることであり、申し訳ない気持ちになることや収入減といった課題がある ・そのため、土日行事とすることや、それによる振替休日の対応のための学童保育の充実が必要
7		<ul style="list-style-type: none"> ・女性の登用には、子育て中の母親の意見の反映も重要であり、そのための一時預かりのような仕組みが充実するとよい
8	地域共生社会 公共交通・交通 ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交通の確保については、市民に最もメリットがあるため、行政側の資金だけでなく、クラウドファンディングなど、市民を巻き込んだ取組という考え方も解決策の一つ
9		<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少社会を前提とした医療体制の再構築についても盛り込んでいただきたい

No.	項目	発言要旨
10	地域共生社会 公共交通・交通 ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・農村における医療をどうするかということも課題 ・先端技術により、車に乗り込めば診断でき、異常を感知した場合に病院に行けるようなシステムが将来的にできるとよい
11		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の足がないと、市民は皆困る ・もう一度、交通事業者に頑張ってもらくとともに、市民が公共交通を利用するという取組が必要 ・それでも行き届かない場合はNPOが担うなど、皆が協力し合って地域交通を確保すべき
12		<ul style="list-style-type: none"> ・地方において、現実的には年寄りの車は必要であり、免許返納は不可能に近い ・そのため、高齢者の運転のために30km/h以上出ないような車を作るのも一つの考え
13	県土強靱化	<ul style="list-style-type: none"> ・ため池の決壊も重要な問題 ・管理者がいなくなっていており、きちんと行政で対応していただきたい
14		<ul style="list-style-type: none"> ・災害別による対応の違いを、住民がわかりやすく理解できるよう、もう少し目に見えるような取組を行うべき ・住民にハザードマップが徹底されていないのではないか
15		<ul style="list-style-type: none"> ・実際に災害が起こった際にどう対応するのか、住民に安心感を与えるものが必要 ・防災カメラなど、情報が見えるもの、聞こえるものといったビジビリティのあるものにより、住民がどう行動すべきか判断できるようにすべき
16		<ul style="list-style-type: none"> ・住民にとってはソフト面、避難を実際にできるようにすることが重要 ・避難訓練のありようが、実際の災害に合っているかどうかの検証が必要
17	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・大学連携について、文部科学大臣から「柴山イニシアチブ」において「大学連携推進法人(仮称)」というものが示された ・法改正が必要だが、解決策の一つとして検討して欲しい
18		<ul style="list-style-type: none"> ・高卒の離職率が高いという問題があり、そのミスマッチにおいて最も大きいのは、地元企業と高校の先生とのコミュニケーション不足 ・生徒の個性、適正にあった就職先の提供ができていないということの改善が必要
19		<ul style="list-style-type: none"> ・高校の先生が地域に住んでおらず、遠方から通うケースも多いということが、地域との密着において問題となっているのではないか

No.	項目	発言要旨
20	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・企業は成績よりコミュニケーション能力を大事にする ・3年未満で30%以上が離職するという現状から、中途採用がいいという企業もある ・学校の説明を聞くことは多いが、もっと企業ニーズを把握する場、機会を積極的につくって欲しい
21		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力、根本的な人間性、考え方というものは子育ての間に築かれるもの ・昔と違い、生徒の先生に対する言葉遣い、尊敬する、話を聞くという態度ができていない ・それは現在の父兄の影響もあると思われるため、キャリア教育は親も含めて一緒に育てていくという家庭に対する指導も必要になってくるのではないか
22		<ul style="list-style-type: none"> ・商業高校から採用した人材は、高校在学中から目標感を持って学んでいるため、短大・四大卒の学生より力があることも ・目標感をいかに小中高の時から持ってもらうかが大事
23		<ul style="list-style-type: none"> ・進学による県外流出を考えると、魅力ある教育機会というものを見直していくべき ・都市部の華やかさという面はあるが、やはりきちんとした教育が受けられる環境があるのかどうか見直し、魅力ある大学づくりなどにもっと踏み込んでいくことが必要 ・そうしないと県外大学にでていってそのまま帰ってこないことになる、大事なポイントである
24	人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ・都内のインターンシップでは、1月～半年で単位も付与するという大学もある ・人手不足の中小企業に学生を派遣し、経営戦略、商品開発、新しいビジネスモデルの構築など、高度な内容の仕事をさせ、採用に繋がるケースもある ・中小企業にとっては、短期間でも人手の確保ができ、学生、企業双方にとってメリットのある仕組みであるため、参考にしてほしい
25		<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容は変わらないが、福岡への転勤を女子社員が希望したがるという実態もある ・住む街そのものの魅力も考えるべき
26		<ul style="list-style-type: none"> ・街の魅力はすぐにはできないため、若者が都市に出ることは認めざるを得ない ・一度出た人材が、大分に帰って来たくするような具体的な施策をうつべきではないか ・「帰っておいで」という取組が必要
27		<ul style="list-style-type: none"> ・個別の企業が求めるニーズ、能力が学生に整理、理解されているのかが疑問 ・大学の教員と企業の経営者でも認識がずれているという現状があるため、それを共有する場が必要 ・学生に対し、企業ニーズをうまく示せ、繋ぐことができるような環境、仕組みが必要
28		<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携プラットフォームをつくるためのガイドラインが国から示される予定であり、大学、自治体、産業界などが連携する枠組みが内容となるため、これを頭に置きながら進めていくべき
29	<ul style="list-style-type: none"> ・何年目に離職しているかといったデータも必要ではないか ・アンケート調査はあるかもしれないが、ミスマッチの詳細を把握したものがない ・どの層に向けた施策が必要かといった考え方が重要ではないか 	

No.	項目	発言要旨
30	人材確保	・「帰っておいで」というためには、流出先の地域も踏まえ、マッチングするための手立てをシステムチックに細かく考えていくべき
31		・アンケート調査等により、転出転入動機など、社会動態の更なる分析をもっとしっかりやっとうえで、施策をつくるべき
32		・大分県自体の魅力があれば戻ってきたいと考える人は多い ・「帰っておいで」作戦には、働く場所があり、お金が稼げ、生活できるという環境を整えることが必要
32		・移住者、就業者等に対する対策も重要 ・APU卒で農業で起業した女性の話では、地域からよそ者扱いされ、大きな農業ハウスの雨音がうるさいとか、環境を損なうとか、地域の人からいろいろ言われると言っていた ・こういった先駆けとなる人に対する、地域のバックアップやコミュニケーションに対する支援が必要
33		・移住については、人生におけるわくわく感も大事であり、トリニータファンがホームで応援するために大分に移住しようとか、切り口を変えて取り組んでも面白いのではないかと
34	・いったん出た人を大分に帰らせるのは大切、福祉施策の充実が「帰っておいで」に繋がる ・住宅費、生活費、子育て・教育の環境等を東京と比較した場合に、どちらが充実しているかといった広報・キャンペーンもよいのではないかと ・リタイア後も活躍できる場があり、一家みんなが安心して暮らせるといった観点など、ターゲットの年代等に応じて、福祉と仕事や教育などをうまくリンクさせて打ち出せるとよいのではないかと	
35	産業振興	・中小企業等は通年採用、外国人受入を考えざるを得ない状況だが、賃金体系が昔の日本人の働き方をベースにした考え方のまま ・残業の建前と実態が違うといった状況では、外国人の場合訴訟になりかねない ・現実に即した給与体系、就業規則等について、もう一度考え直す必要があるのではないかと
36		・日本の産業を育成する官庁においても、事務方のトップは法学部卒業 ・IT人材などを育成するには、そういったあり方を見直さないと、本当の意味での成長する人材などは育たないのではないかと
37		・特区制度等をつかって先端技術に関連した企業を、大分市ではなく東京へのアクセス、情報の共有化がしやすい国東に誘致するのも一つの案ではないかと ・そういった街をつくるという発想の転換をしてもよいのではないかと
38		・人口減少を踏まえ、海外に地方の企業がブリッジを直接架けていくという視点も必要 ・海外戦略の推進として、先手を打つ形で施策的に中小企業をリードしていくものがあるとよい

No.	項目	発言要旨
39	産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・先端技術を活用した地域課題解決の事例ができることが大事 ・我々の世代では想像もつかなかったことが実現する時代であり、プログラミングをはじめ、先端技術に関する教育の充実が必要
40		<ul style="list-style-type: none"> ・外国人労働者との会話はまだまだ困難であり、翻訳の精度向上に技術の活用が必要 ・ドローン使用に際し、2～3日間の講習が必要など、まだまだ使いにくい状況であり、できるだけ早く、使いやすい環境になるとよい ・鳥獣害対策など、地域に密着した技術をつくっていただきたい
41	芸術文化 スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・「ラブおおいた」作戦を小中学校の頃に展開して欲しい ・自然だけでなく歴史や伝統など、大分らしさについて、学校教育の中で知る機会をたくさんつけて欲しい ・それが人材育成にも繋がるし、大分の良さの発見にも繋がっていく
42	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを踏まえた、もう少しグローバルな視点を持った目標指標の設定、計画策定が必要ではないか
43		<ul style="list-style-type: none"> ・人口ピラミッドをみると逆さになっている、大分県の20～30年後を考えると、最大かつ重要なのは人口減少(出生数減)の分野ではないか ・他の施策も全てここに繋がっていくべきであり、逆に、ここに帰結しない施策はやらなくてもよいくらいの割り切りを持って、自然増減、社会増減に係る施策をやるべき ・我々も、そうしないと大分県が存在しなくなるくらいの認識を持ち、県民にも発信すべき
44		<ul style="list-style-type: none"> ・出産や子育てにはそれぞれリスクもあるが、そこに、他のリスクが重なった場合、現実的には非常な困難な状況が発生する ・起業リスクなども含め、色々なリスクに備えた、再チャレンジできるような安心感を持てる方策、環境を全体的に取り入れていただきたい
45		<ul style="list-style-type: none"> ・見直しということで、課題・マイナス面に着目しているが、後の人が希望を持って前を向いていけるような、次の世代によい大分県を引き継いでいけるような明るいプランにしていきたい